

平成 17 年 10 月 3 日

1 号機におけるタービン建屋低電導度廃液系サンプポンプの 起動回数の増加について

当所 1 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 17 年 9 月 29 日、タービン建屋の低電導度廃液系サンプ*¹ (A) から低電導度廃液系受けタンク*² への水の流入量が増加傾向を示していたことから、サンプポンプの起動回数を調査したところ、通常よりも多く起動していることを確認しました。

現場を調査したところ、9 月 30 日午後 2 時頃、第 4 給水加熱器*³ (A) に取り付けられている逃がし弁*⁴ から温水(復水*⁵) が当該サンプに流入していることを確認しました。当該サンプへの温水の流入は、当該弁のシートリークによるものと推定し、同日より当該サンプポンプの運転状況ならびに当該サンプ内の水温について継続して監視することとしました。また、当該サンプの水温上昇を抑えるため、当該サンプに復水補給水*⁶ を注水しています。

現在、サンプポンプの運転状況、サンプ内の水温とも安定して推移しております。

本事象は、プラント運転上の安全に影響を及ぼすものではなく、また、外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 低電導度廃液系サンプ

各建屋内の機器からの排水、試料採取の廃液等を受けるタンク。

* 2 : 低電導度廃液系受けタンク

低電導度廃液系サンプからの廃液等を受けるタンク。

* 3 : 給水加熱器

原子炉へ戻す水の熱効率を上げるため、温度を上げる(あたためる)ために使用する機器(3系列あり、1系列に6台設置)。

* 4 : 逃がし弁

給水加熱器内の水の膨張による圧力上昇を抑制するため、これを逃がすための弁。

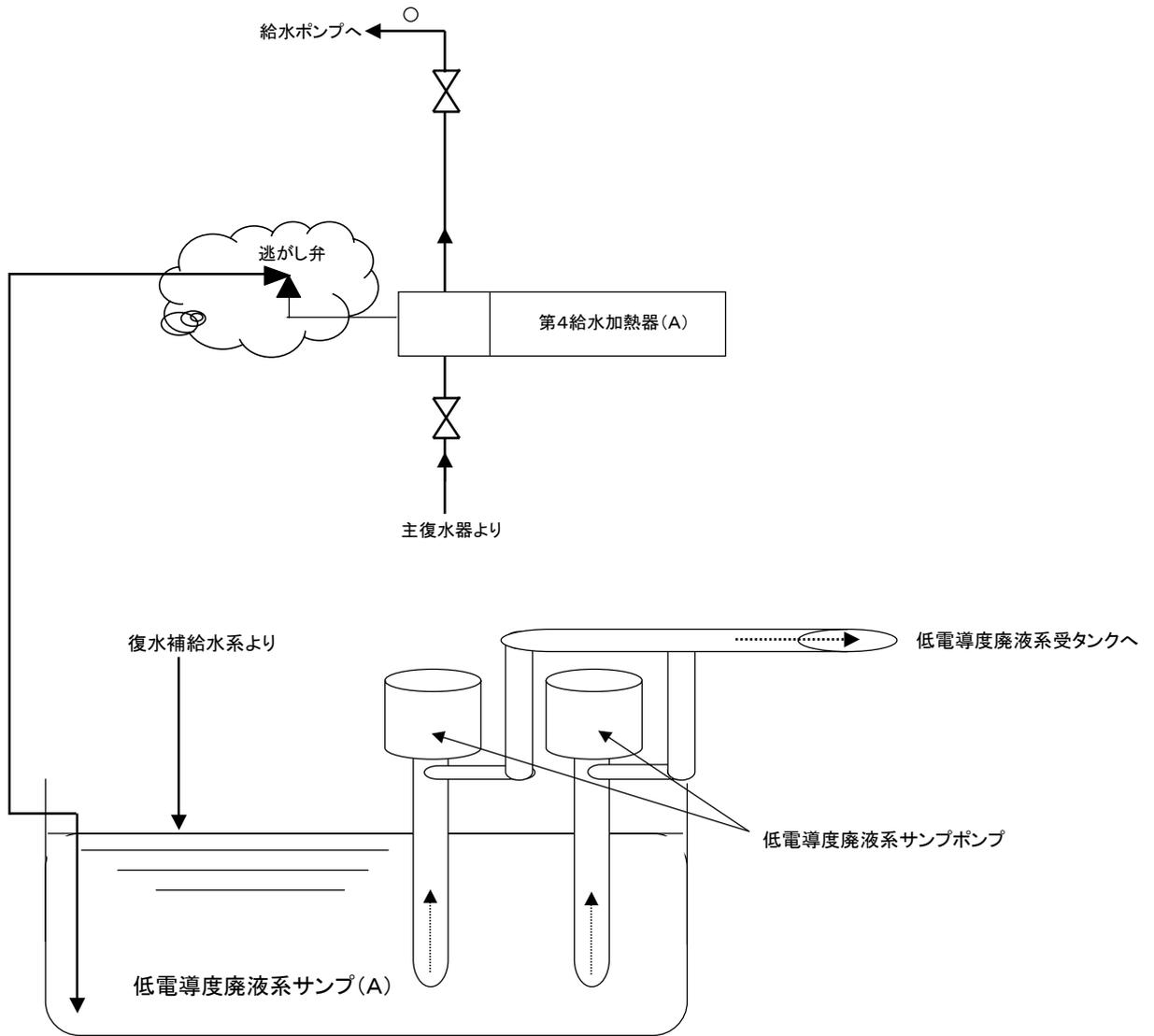
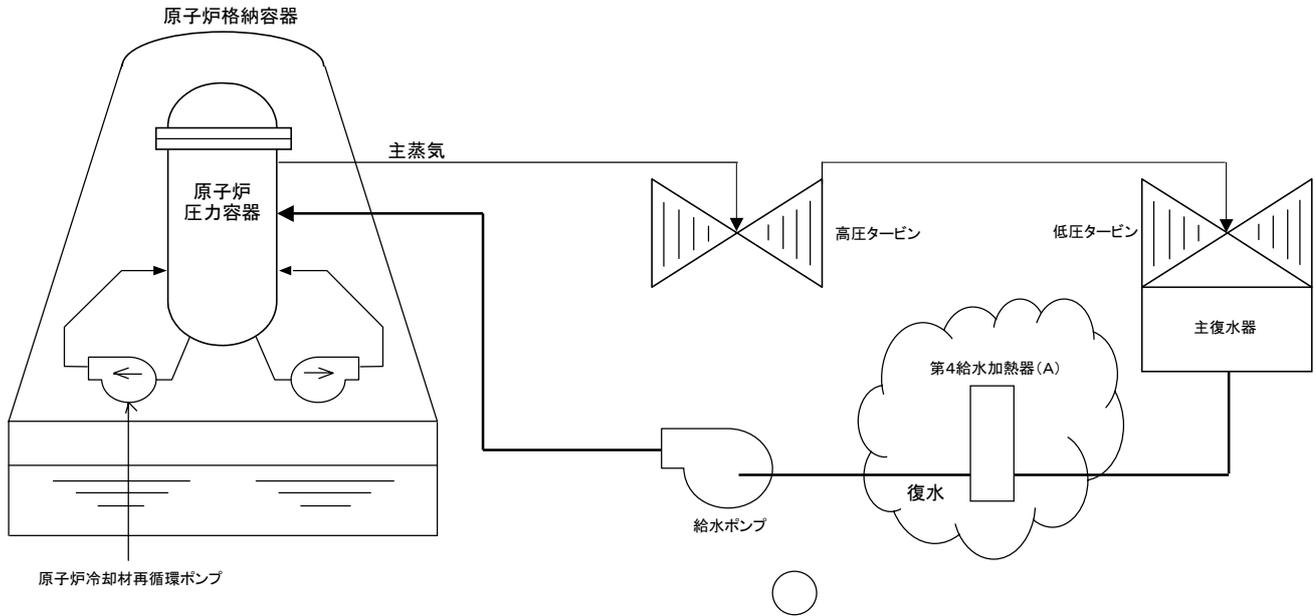
* 5 : 復水

タービンを回した後の蒸気が海水で冷却され、水に戻ったもの。

* 6 : 復水補給水

プラント内で使用した水をフィルター等で処理し、再利用する水。

「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」(平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み)における、区分Ⅲに該当するものとしてホームページに掲載したものです。



1号機 タービン建屋低電導度廃液系 概略図